

## 平成22年度第1回鳴門市公共交通連携協議会・鳴門市地域公共交通会議概要

**日 時**：平成22年6月3日（木）10時00分～11時40分

**場 所**：鳴門市役所本庁舎3階会議室

**出席者**：別紙

**傍聴者数**：2人

### 会議次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) 地域バス実証運行報告について
  - (2) 市営バス・地域バス路線再編の取り組みについて
  - (3) その他（鳴門市公共交通連携協議会 平成21年度決算について）
3. 閉会

### 会議の概要

1. 開会  
10時00分、開会。
2. 議事
  - (1) 地域バス実証運行報告について  
地域バス実証運行の実績（平成21年1月～平成22年3月）について事務局より報告した。

#### [地域バスの利用状況について]

委員より、利用状況の推移について質問があり、事務局より、開始から15ヶ月間の推移を見ても季節的な動きもそれほど大きくはなく、同じような利用状況であったと回答した。

#### [予約便について]

委員より、予約便であまり使われていない便があるが、どう分析しているのか質問があり、事務局より、予約便については、元々利用者の少なかった便であることと、電話等で予約の手間があるので他の時間帯に移ったり、近距離の方や利用頻度の少ない方の中には利用されなくなった方もいるのではないかと回答した。

- (2) 市営バス・地域バス路線再編の取り組みについて  
市営バス・地域バス路線再編の取り組みについて事務局より報告した。

[地域バス路線再編後の乗車料金について]

委員より、乗車料金の見直しについて質問があり、事務局より、地域バスの再編で高島側が撤退すると、駅前から乗り継ぎが必要となるなど料金等について負担も大きくなる。また、市営バスから地域バスに変わり200円均一となった後の停留所単位の調査結果を見ると、特に近距離の利用者が減っている状況もあるため、再編後の料金設定については検討する必要があると考えていると回答した。

[地域バス路線再編後に里浦栗津運動公園線で運休する便について]

委員より、再編案で土日祝に運休するとされている予約便の稼働率について質問があり、事務局より、土日祝の稼働率について、年間121便設定の内、

- ①便は、実働 3便で稼働率 2.5%
- ②便は、実働20便で稼働率16.5%
- ⑭便は、実働34便で稼働率28.1%
- ⑮便は、実働11便で稼働率 9.1%
- ⑯便は、実働 3便で稼働率 2.5%

となっており、朝7時台の①②便と18時台の⑯便は稼働率が低く、17時台の⑭便は約30%の利用があるが、帰りの⑮便が9%しか利用がなく、利用目的も観光・レジャー・買い物といった内容で、運休しても直接的な影響を受ける利用者ではないという判断で、これら5便について土日祝は運休したいと考えていると回答した。

それに対して委員より、朝の便では栗津方面から鳴門駅のほうへ出てくる人が多く、夕方の便は栗津方面へ帰る人が多いという状況で、17時台の⑭便は約30%出ているので、片便はある程度的人数が確保できているという見方もできると思うが、その辺りは再度検討の余地はあるのかという質問があり、事務局より土日祝日について少ないとはいえ利用されている部分については、時間調整などして頂き、一便前に乗って頂くといった形でご理解頂きたいと考えていると回答した。

関連して委員より、土日祝について、案では最終便となっている15:41を後ろにずらすなど、やり方はあるかもしれないので、再度検討してほしいという意見があった。

関連して委員より、運動公園でいろいろなスポーツやイベントなどが土日祝に行われており、例えばヴォルティスの試合が14時から始まったら終わるのは16時過ぎになり、案だと帰りは乗れなくなるので、そういったイベント等との関連についても、もう少し考えてはどうかという意見があった。

[地域バス路線再編後の新経路（老人福祉センター前）について]

委員より、国を挙げて高齢者の介護予防・健康づくりが推進されており、市老人クラブ連合会においても老人福祉センターで多くの行事を催しているが、その時に、大麻方面や北泊方面など他の地域から時間帯を合わせて地域バスが利用できるようになるのか。そういった利用方法について検討することも今後の課題ではないかという意見があった。

[鳴門公園線の競合調整について]

委員より、鳴門公園線の競合調整のスケジュールについて、平成23年4月で市営バスが撤退し、競合調整として、観光シーズンや早朝・夕方の便への対応や、市の財政負担等も考慮して検討していくとあるが、一旦撤退したあとにいろいろな影響等について検討を進めるということか。また、検討した結果をどのように具体的にしていくのかという質問

があり、事務局より、平成23年4月から競合を解消するという意味で、それまでに、昨年の利用実態調査（2週間のデータ）の結果等や状況を踏まえ、今年の秋頃からでも事務的作業を進めていきたいと考えており、鳴門公園線は通学の利用等もあるので、早朝便と夕方便、また昼間時間帯にどのくらい運行するのか、地域への説明なども行っていきながら検討していくと回答した。

それに対して委員より、年明け開催予定の第3回公共交通会議あたりでは、鳴門公園線の素案を出してほしいという意見があった。

#### [老人等優待制度について]

委員より、徳島バスで老人等優待制度が使えるようになるのは、市バス・地域バスが撤退する部分ということで区間が限られており、制度が使えない路線も多くあるので、しっかりと周知をしてほしいという要望と、何か周知方法は考えているのかという質問があり、事務局より、老人等優待制度を利用できる区間がここからここまでということが明らかに分かるような形にしたいと回答した。

#### [市営バスの今後について]

委員より、市営バスの残り4路線について、市はバス事業から撤退して委託や移譲等を考えていきたいということだが、サービスレベルをどうするのかといった方針等はあるのかという質問があり、事務局より、現在の利用状況等を精査して地域とも話をしながら、最低限必要とされる部分については確保するという方針で取り組んでいきたいと回答した。

#### [サービスレベルの向上について]

委員より、高齢者のことも考えてバス停の間隔等を検討し、幾つか新設のバス停を作りバス停密度をもう少し上げるとか、臨時バス停のような形で、人がいれば停まるといった方法で、サービスレベルを向上させる方法もあるのではないかという意見があった。

委員より、これからは高齢者の移動の確保といったことも出てくるので、老人等優待制度を拡大していく方法も考えてはどうか。県レベルの議論かもしれないが、他の市町村とも連携をして、徳島バスのいろいろな路線に各市町村の住民が乗れるような仕組み等も考えてはどうか。そういったことで、地域にあるいろいろなサービスを上手く使っていける方法を検討してほしいという意見があった。

#### (3) その他（鳴門市公共交通連携協議会 平成21年度決算について）

「鳴門市公共交通連携協議会 平成21年度決算」について、全ての委員より承認頂いている旨を事務局より報告した。

議長より、市ホームページへの議事録公開について報告した。

### 3. 閉会

11時40分閉会。

# 平成22年度第1回鳴門市公共交通連携協議会・鳴門市地域公共交通会議 出席者

(平成22年6月3日現在)

		地域公共交通 会議委員	公共交通 連携協議会 委員	出欠
鳴門市自治振興連合会会長	林 一重	●		欠席
鳴門市社会福祉協議会会長	多智花 亨	●		○
鳴門市幼小中PTA連合会副会長	吉田 一彦	●		○
鳴門市老人クラブ連合会会長	山尾 秀男	●		○
鳴門市企業局次長	田村 豊	●	●	○
徳島バス(株) 常務取締役兼営業部長	吉岡 正俊	●	●	○
(社) 徳島県バス協会専務理事	関本 正康	●		○
徳島県タクシー協会(鳴門第一タクシー(有) 取締役)	長尾 春代	●		○
鳴門市交通労働組合委員長	江澤 邦弘	●		○
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	佐野 満	●	オブザーバー	○
鳴門市副市長	平野 悦男	会長代理	会長	○
鳴門市企画総務部長	左倉 昇	●	副会長	○
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所徳島国道出張所長	田中 元幸	●	●	○
徳島県東部県土整備局(鳴門)維持管理担当課長	石谷 和栄	●	●	○
徳島県鳴門警察署交通課長	森 利行	●	●	欠席
徳島県県土整備部運輸総局交通戦略課長	坂本 隆哉		●	欠席
徳島県県土整備部運輸総局交通戦略課課長補佐	岸本 雅裕	●		○
徳島大学大学院教授	山中 英生	会長	●	○
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	岩城 正人		オブザーバー	○

## 事務局

鳴門市企画総務部副部長	三木 義文	
鳴門市企画総務部企画広報課長	広瀬 高	事務局長
鳴門市企画総務部企画広報課交通政策室長	竹田 仁伸	事務局
鳴門市企画総務部企画広報課交通政策室主事	小椋 豊美	事務局
鳴門市企画総務部企画広報課交通政策室主事	横手 史和	事務局